

第4回トリニダード・トバゴ日本語弁論大会の開催

2021年9月19日、第4回トリニダード・トバゴ日本語弁論大会がオンライン形式で開催され、9人が参加しました。この大会は、日本大使館と西インド諸島大学（UWI）セントオーガスティン校言語学習センター（CLL）との共催で、日本国際交流基金後援、国際協力推進委員会（APIC）の協賛、カリビアン・ガス化学社（CGCL）の協力を得て行われました。

カーターCLL所長及び平山大使の開会スピーチの後、審査員（国際交流基金メキシコ事務所から佐藤志穂日本語専門家、清水カリビアン・ガス化学社財務管理部長、平山大使夫人）の紹介に続き、初級レベル7人、中級レベル2人の出場者が熱弁を奮いました。今回は、スピーチは事前に各自が収録したビデオを上映し、その後ライブでの質疑応答が行われました。

中級レベルでは、JETプログラムに参加して訪日予定のアディオラ・チェイスさんが、高校時代に日本語と日本文化の授業や漫画、アニメを通じて日本に興味を持ち、大学で本格的に日本語学習をしたが、その後、独学で継続することの難しさに直面して、一度は日本語学習の継続を諦めていた過去を吐露。本コンテストへの参加に向けて再起し、日本語の魅力を再認識したこと、外国語学習を通じて得られるメリット等を、優勝しました。

初級レベルでは、タミカ・メイソンさんが、「私の町で一番好きな場所」をテーマに、自宅から程近い裏庭と呼ぶサンフェルナンド・ヒルの魅力を紹介。子供のころ父親と訪れた公園や魚釣りをした思い出が詰まった場所であり、今では、桜に似たパイの木や景色など自然の美しさを楽しみ、鳥の鳴き声を音楽代わりに聞きながら読書をするといった日常を紹介しつつ、視聴者にも一度は訪ずれたいと呼び掛け、優勝しました。

審査委員長を務めた佐藤志穂日本語専門家からは、全体好評として、よりよいスピーチをするためのいくつかの助言があり、日本語学習者にとって有益な機会となりました。

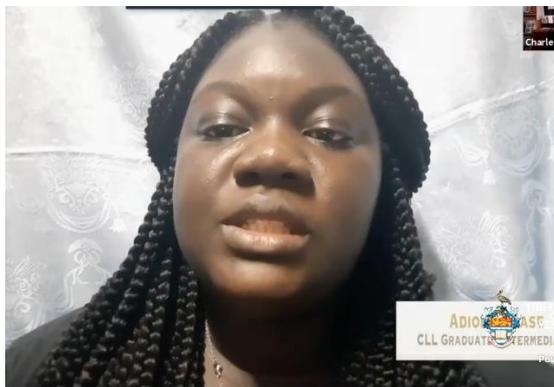
今回は、コロナ禍の影響の下でオンライン開催となりましたが、参加者は日本を含めて地域的な広がりを見せ、世界中から100人を超える参加がありました。



平山大使による挨拶



カーターCLL 所長の挨拶



中級クラス優勝者の
アディオラ・チェイスさん



初級クラス優勝者の
タミカ・メイソンさん



審査員の3人（平山大使夫人、清水
カリビアン・ガス化学社財務管理部
長、佐藤志穂日本語専門家）



ズームにてオンライン形式で実
施されたスピーチコンテストの様子